

平成 30 年度 学校評価アンケート結果

1 学校評価の目的

今年度の教育活動その他の学校運営の状況について「児童生徒」「保護者」「職員」による評価を行ない、その結果に基づき本校の更なる教育水準の向上、学校運営の改善を図るために必要な具体的な方法を検討するためアンケート調査を行った。

2 実施状況

- (1) 学校経営計画を受けて、学校評価運営委員による質問項目の検討
- (2) アンケートの実施 (*職員の部は「働き方改革」の具体的意見を求めた)
- (3) アンケートの回収
- (4) 結果の整理
- (5) 分析

3 アンケート結果

(1) 児童生徒

*一番重要視しなければならない児童生徒の回答は言語表出・文字表記が可能な児童生徒に限られることから、全容を捉えることの限界を加味し、少人数の意見でも全職員でその意見を共有し、対応を検討する。(児童生徒全回答を職員で共有した)

ア 児童生徒 123 名中 61 名の回収 (回収率 50%)

小学部 27 名、中学部 17 名、高等部 17 名

イ 各項目の評定

アンケートは各質問項目に対して「はい」「いいえ」「どちらともいえない」で回答、集計している。

ウ アンケートの概要

①児童生徒アンケート

小学部 10 項目中 1 項目は記述評価、中学部・高等部 11 項目中 2 項目は記述評価

小・中・高等部 3 学部の共通項目 9 項目の肯定評価(はい)が否定評価(いいえ)を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

②共通 9 項目について

A 肯定評価 97%、否定評価 3%

肯定評価：90%台→9 項目中 5 項目

80%台→9 項目中 3 項目

70%台→9 項目中 1 項目

B 評価点が上位なもの

・Q6 『学校の先生は、地震や火事が起きたとき、安全に身を守る方法を教えてくださいませんか』 *肯定評価 96%

・Q3 『学校での学習やスポーツ、自分の係などで自信をもってやれることはありますか』 *肯定評価 93%

- ・Q4『学校はあなたの健康や命の大切さを教えてくれますか。』

＊肯定評価93%

C 評価点が下位なもの

- ・Q7『他の学校との交流学习は楽しいですか』

＊肯定評価79%

④学校で楽しかったこと・頑張ったこと

＊評価表参照

(2) 保護者

ア 保護者122名中100名の回収(回収率82%)

回収率(小学部60名中52名、中学部26名中20名、高等部36名中28名)

イ 各項目の評定

アンケートは各質問項目に対して下記のA～Dの各評価をそれぞれ4点、3点、2点、2点として点数化して、質問項目ごとにその評価点を表記した。

A(4点)：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B(3点)：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C(2点)：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D(1点)：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

未記入：(平均点算出から除外)

＊考察の方法として特にも、肯定評価(A+B) [%] が否定評価(C+D) [%] を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

①保護者アンケート(評価点の平均3.6)

A 質問全14項目(寄宿舍3項目)

- ・肯定評価(平均値92%)、否定評価(平均値8%)

B 評価点が上位なもの

- ・Q2『お子さんにとって、学校の学習活動は意欲的に取り組めるものになっていますか』

＊肯定評価99%

- ・Q7『お子さんの学習内容について、学校は家庭と十分に連携を図っていますか』

＊肯定評価99%

- ・Q14『お子さんが盛岡となん支援学校で学んで良かったと思いますか』

＊肯定評価96%

C 評価点が下位なもの

- ・Q11『学校からのホームページによる情報提供は、わかりやすいものとなっていますか』

＊肯定評価77%

(パソコンをもっていない。入学前は見たが今は見ない。通信で十分 等)

- ・Q12『学校の施設や設備に満足していますか。』

＊肯定評価 79%

(エアコンの設置希望。温度調整。体育館の児童生徒の自由な利用。水管理。水浴プールの利用時間の延長希望 等)

- ・Q13『学校の災害時に対応した連絡訓練(すぐメール・伝言ダイヤル)は有効でしたか』

(忘れて確認できなかった。メール登録したが届かない。等)

(3) 職員

ア 職員 153 名中 142 名の回収 (回収率 92.8%)

回収数 142 (小学部 54 名中 53 名、中学部 24 名中 19 名、高等部 33 名中 31 名、寄宿舎 17 名中 17 名、看護師 15 名中 14 名、事務部 10 名中 8 名)

イ 各項目の評定

アンケートは各質問項目に対して下記の A～D の各評価をそれぞれ 4 点、3 点、2 点、2 点として点数化して、質問項目ごとにその評価点を表記した。

A(4点) : 非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B(3点) : まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C(2点) : 少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D(1点) : 大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

未記入 : (平均点算出から除外)

＊考察の方法として特にも、肯定評価 (A+B) [%] が否定評価 (C+D) [%] を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

①職員アンケート (評価点の平均 3.5)

A 質問全 14 項目について

- ・肯定評価 (平均値 98%)、否定評価 (平均値 2%)
- ・肯定評価 : 90%台→12 項目、80%台→2 項目
- ・肯定評価が否定評価を下回ったもの→なし

B 評価点が上位なもの

- ・Q5『私は、何かあった時に「チーム学校」の考えで、問題を一人で抱え込まないよう「報・連・相」に努めている。』 ＊肯定評価 99%
- ・Q2『学校として、安全な教育環境を整え、危機管理体制を適切に設定・運用している。』 ＊肯定評価 97%
- ・Q4『学校として児童生徒間の触れ合い、関わりを大切に悩みや困り感に寄り添って人間関係の育成に努めている。』 ＊肯定評価 97%

C 評価点が下位なもの

- ・Q8『私は、授業等において、AT、ICT 教材を個々の児童生徒に応じ工夫し活用

- している』 *肯定評価 83%
- ・Q9『学校間交流や居住地校交流は、児童生徒にとって有意義な学習活動になっている。』 *肯定評価 89%
 - ・Q10『学校は、個々の児童生徒の実態やニーズに応じた進路支援を丁寧に行っている』 *肯定評価 93%

4 考 察

(1) 肯定評価と否定評価の割合

	回収率	肯定評価	否定評価	
児童生徒	50%	97%	3%	肯定評価>否定評価
保護者	82%	92%	8%	肯定評価>否定評価
職員	95%	98%	2%	肯定評価>否定評価

児童生徒、保護者、職員ともに肯定評価が否定評価を高い割合で上回った。

(2) 各評価における分析

ア 児童生徒

- ・児童生徒の意見は、職員、保護者、学校運営評価委員会でも全容を知る必要があると思われる。
- ・小学部の結果の中では「楽しかったこと」の質問に対し、友達の関わり、体育等の授業、行事等 25 項目が挙げられた。児童が達成感を感じられたことについて、自分の言葉でのびのび表現している。
- ・中学部、高等部では「頑張ったこと」としてを質問したが、障がい者スポーツ大会の出場とその結果や裁縫ができるようになったことなど、取り組んだ学習や活動の成果を答えていた。更に高等部では表現の中に生徒同士や職員との関わりについてや、「ていねいに実習での作業ができたこと」等状況を伝える表現が加わってきている。
- ・評価点上位「自信をもってやれること」が93%と高い結果であることは保護者、職員にとっても今後の支援や目標を考える上で重要な点であると考えられる。
- ・「気軽に職員と話ができるか」についても、中学部の評価点が下がっているのは、思春期にある生徒たちの支援を考える上で重要な点であると考えられる。

イ 保護者

- ・61 項目の意見の中で、改善を求める厳しい意見を記している保護者の多くが「この学校で学んで良かったか」の質問に A・B の肯定評価であった。
意見があることが否定評価ではなく、多くの想いの中で学校を評価して下さっているという傾向が見られた。

ウ 職員

- ・今年度は学校看護師の評価も加えた。学校看護師からも授業に寄り添いながら、子ども達や職員への想いや、教育内容への高い関心・評価を得られた。
- ・アクションプラン実現に向けての意見を求めたところ、多くの意見が出された。学校としての年度末反省を行うこの時期、貴重な意見として、全職員で検討し、更なる意見を求め、改善に努めていく。